DOCTOR

ドクター クローズアップ closeup

亀田病院副院長

# 丸尾 泰則 氏

まるお　やすのり
昭和53年北海道大学医学部卒業。
同年北海道大学脳神経外科神経内科部門入局。
平成元年市立函館病院に赴任。神経内科科長や医療部長を歴任。
平成31年４月亀田病院副院長に就任。
日本神経学会神経内科専門医・指導医

## 今年４月から亀田病院の副院長に就任

## 神経内科の第一人者として多くの患者を診療

今年４月、亀田病院（蒲池匡文理事長）の副院長に就任したのが丸尾泰則医師だ。道南地区における神経内科の第一人者として、多くの患者を診療してきた。

丸尾医師は兵庫県出身。医師を志したのは瀬戸内海の島々を往診する医師のテレビのドキュメンタリー番組がきっかけだった。「中学生の頃でしたが、病気の人を治す医師の姿に感銘を受けました」。高校卒業後は北海道大学医学部へ進学。「北海道への憧れと、ロマンチックな雪は西日本に住む私にとっては特別な存在でした」。

大学４年になると臨床の講義が始まる。「最も影響を受けたのは当時、神経内科の講師だった田代邦雄先生です。田代先生は神経内科が診療科として独立した際の初代教授に就任しましたが、神経内科の道を極めた恩師でした。ポリクリ（臨床実習）での田代先生の診察は非常に丁寧でした」。

昭和53年卒業後は北大脳神経外科神経内科部門に入局。平成元年市立函館病院への赴任は、同病院に開設する神経内科の基盤作りの役割だった。「当初は２～３年くらいの予定でしたが、そのまま30年が過ぎてしまいました。在宅の重症難病患者の療養支援では、保健所の保健師が重要な役割を果たします。市立函館保健所の保健師は介護保険制度のない時代にも自宅を訪問し、日常生活の相談応需や情報提供等の援助を行ってきました。函館は医師として働きやすい街です」。

神経内科はおもに脳・脊髄、末梢神経、骨格筋に障害をきたす様々な疾患を内科的に診療するが、実に多様な疾患を対象としている。「神経内科の診療でも画像診断を中心とする診断技術は進歩しています。例えばパーキンソン病は中脳の黒質とよばれる部分や大脳基底核とよばれる部分の神経細胞に変性が見られますが、ＤＡＴ（ダッド）スキャンと呼ばれるラジオアイソトープを用いた検査を行うと、その変化を画像でとらえることができます」。

亀田病院の４階は障害者病棟（59床）で神経難病の患者が８割を占めている。「市立函館病院では担当していた患者の入院を引き受けてもらいましたが、亀田病院で診療を行うようになったのは、そのような経緯もあります」。神経内科の疾患は急性期から慢性期の在宅療養支援まで、幅広い領域が対象となる。「診断技術は進歩していますが、神経内科の診療における基本姿勢である丁寧な問診と診察を続けていきます」。